

# 下野市立細谷小学校

## 1 学校課題

- (1) 研究主題  
主体的・対話的で深い学びの実現を目指して (3)  
～数学的な表現力を高める算数の授業づくり～
- (2) 目指す子ども像  
○進んで学習する子ども  
○学び方や考え方を身に付けた子ども  
○自らの力で課題を解決できる子ども

## 2 研究計画

月	研修内容
4	・児童の実態把握・学校課題研究構想についての共通理解 ・学習のきまり・ノート指導・保護者への協力依頼 ・全国学力・学習状況調査・とちぎっ子学習状況調査
5	・第1回学習意欲調査および分析・課題設定
6	・学校課題指導案検討 ・ぐんぐんウィーク①
7	・第1回学校課題研究会 (6年) ・夏季休業前の家庭学習法の指導
8	・全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査の結果分析・改善策の検討
9	・第1回全校一斉計算テストの実施 ・学力向上プランの作成
10	・ぐんぐんウィーク②
11	・学校課題指導案検討 ・ぐんぐんウィーク③
12	・第2回学校課題研究会 (2年)・第2回学習意欲調査および分析考察
1	・第2回全校一斉計算テストの実施 ・学力テスト (全学年) ・研究成果と課題の確認
2	・ぐんぐんウィーク④ ・学力テストの分析および対策の検討 ・研究の振り返り
3	・次年度の計画

授業実践 改善  
成果と課題検証

## 3 研究内容

- (1) 主な研究内容 (★小中一貫教育との関連)
  - ① 授業づくり
    - ・ 基礎基本の定着、話型の揭示資料作成と活用
    - ・ なぜ「学び合い」なのか、教科のねらいに迫るために、どのような場面でどう実践する。
    - ・ 教材の深い読み (どのような指導がふさわしいか、児童の思考過程をあらかじめ予想する、より合理的に解決できる方法を考える等)
    - ・ 課題提示の工夫 (興味、関心、意欲を高める、児童一人では達成できない、児童に学ぶ必要感や有用感を感じさせる等) ★
    - ・ 本時のめあて、振り返りのさせ方★
    - ・ 算数的な活動をとおして自分の考えをもったり、考えを図や式、言葉などを使って説明したりできる力を養う (◎重点課題) ★
    - ・ 個に応じた課題の工夫 (発展課題、復習課題等の研究・準備)
  - ② 教師の指導技術の向上
    - ・ 学力向上推進リーダーの助言を生かした授業改善
    - ・ 児童の発言をつなぐ指導
    - ・ 分かる授業づくりのためのICT活用
    - ・ 授業研究会後の学びの活用、教師相互の授業参観、情報交換の実施

- ・ 児童の実態に即した個別指導、個別対応
  - ・ 教師の自己評価の累積
- ③ 児童の好ましい学習習慣の形成
- ・ 発言の仕方やノート指導、学習の準備物などの基本的な学習の仕方の徹底。
  - ・ 自ら学ぼうとする意欲付けや、学ぶ意味を理解させること。(自分のためになる) ★
  - ・ 家庭と連携した学習習慣の形成、ぐんぐんウィーク (家庭学習強調週間) の活用★
  - ・ 基礎基本の定着、多様な課題にチャレンジする意欲喚起 (業間ぐんぐんタイム活用)
  - ・ 他教科と関連した能力の育成 (プレゼンテーションスキル、考察力、算数で身に付けたことを他教科で生かす等)

## (2) 研究の実際

### ① 第1回授業研究会 (6年「速さ」)

9時間扱いの5時間目、速さの単位の異なる2つの速さを比べるために、どちらかの単位に揃えればよいことを児童に発見させる課題解決型の授業である。

数学的な表現力を高めるために、以下の手立てを講じた。学力差を考慮したグループ学習による課題解決を図ること、そしてグループ間での交流にホワイトボードを活用し、図と式・言葉で説明することの2点である。

授業研究会では、児童が分速に揃えた課題解決が図れた一方、秒速で比べるなど多様な考えを出すことや、個人差を配慮したグループ活動での話し合い・学び合いについて、宇大の先生より指導助言をいただいた。



### ② 第2回授業研究会 (2年「かけ算九九づくり」)

17時間扱いの16時間目、箱の中にあるお菓子の数を表す数をかけ算で表現させる課題解決型の授業である。

発表シートの工夫によって、児童の多様な考えを交流できるようにした。また、学年の児童数が5人と少ないことから、教師が児童の実態を把握した上で、児童の考えをつなぎながら、思考を広げたり深めたりすることをねらった。

授業研究会では、本時5名の児童全員が自分の考えで課題解決できたことを確認した。また、本校のような少人数での学習は、児童の誤答をどの段階で気付かせるか、大勢に対する授業とは違った個別指導のあり方について、宇大の先生より指導助言をいただいた。



## 4 本年度の成果と課題

### (1) 成果

- ・ 考えを図や式・言葉を使って相手に説明させる学習を通して、数学的に表現させることができた。
- ・ 課題解決型の授業で、児童が考えたことを交流させる実践を通して、児童が主体的に考えたり、多様な考えのよさを実感したり、自力解決を図ったりすることができた。
- ・ 学力向上推進リーダーとの連携により、単元計画や1時間の授業の組み方、児童の意見のつなぎ方などの視点から教師個々の授業改善が進んでいる。

### (2) 課題

- ・ 少人数の中にも学力差に応じた指導 (課題の工夫) を進めていきたい。
- ・ 算数・数学の9年間の学習内容や、話し合いの技術といった縦の系統を教師が把握し、児童個々の不足している点を補ったり、次の段階に高めつなげていったりすることを意識しながら授業を計画していきたい。
- ・ 児童の思考が深まるような学習活動を計画し、気付きを引き出し、自分の言葉でまとめる学習スキルを高めたい。